

会員の皆様、お変わりなくお過ごしのことと拝察申し上げます。9月18日に西日本に襲来した台風で、私たちの活動地の三田有馬富士森林公園も林内の太い枯れ松が何本も倒れ、遊歩道にも倒れてくるなどの被害がありました。数年前の大台風ほどの被害ではなかった事は何よりでした。しかし、これからしばらくは、風倒木の処理に追われそうです。

さて、今年の上半期の活動で特筆すべき事がありました。それは、三田あさひ幼稚園の先生方と園児の皆様にも木の葉を通して自然に親しむプログラムを提供できた事です。コロナの第7波が押し寄せてきた為、残念ながらプログラムと木の葉と木の輪切りの提供のみとなって私たち自身の参加は断念しましたが、この経験は私たちクラブ員にとって、新しい自然環境学習の境地を開ききっかけになったと思っています。これまで小学生、高校生、大学生に里山管理体験学習などを支援する機会はありませんでしたが、幼稚園児という幼い年齢のみなさん対象というのは初めての経験でした。みずみずしい感性が大きく発達する幼児期に自然に触れ、自然の中で遊ぶ事は五感を豊かに養い、自分がありのままの自分でいられる時間を経験する事になり、その事がその後のその子の人生でいろいろな局面で支えとなってゆく、との考えを現代の知の巨人といわれる養老孟司さんやノーベル賞受賞の化学者、野依良治さんが講演会や著書の中で述べられています。

私たち「緑の環境クラブ」の活動は、子供たちに「豊かな自然」を遺したいという気持ちから始まりました。豊かな自然でなければ自然は疲弊して、ついには消滅してしまうのです。私たちは設立当初から数年をかけて会員の皆様からの寄付やバザーでの売り上げなどを積み立て「緑の基金」を保存してきましたが、今期のうちにその基金を実際に自然を守る為のトラストなど、信頼できる活動をしている団体に寄贈することを検討しています。自分たちで森林を購入する事ができればよいのですが、それには名義の問題や税金の事などクリアしなければならない課題が多くあります。遺していけるかどうかの問題なのです。本当に自然を遺せるか、遺す意思があるか、そこが何より重要な事なのです。後期の活動は、里山大学への協力や松が丘小学校の環境学習プログラムの実施などに加え、新たに弥生小学校からの依頼もいただいています。この秋も忙しくなりそうです。冬にはコナラの原木にシイタケの菌打ちをするイベントも行います。皆様、奮ってご参加ください。

代表世話人 北田香菜子

令和4年度 上期の活動報告

★里山ふれあい森づくり作業 作業日数 20日 作業延人数 136名 (4/1~9/30)

7月・8月は猛暑の為、整備作業は実施していません。令和4年度上期はコロナ感染防止の為、参加人数は減少しました。

①9月17日(土)尼崎信用金庫三田支店の皆さんと11名で里山整備作業です。笹刈りと枯松の伐採処理に注力。



作業前のビフォー

アフター



★里山体験学習支援 ①5月31日(火)県立有馬高校公開セミナー支援で里山整備体験活動を実施(生徒19名:先生・スタッフ9名)



②8月5日(金)三田あさひ幼稚園樹木の葉っぱのお勉強支援:37名  
コロナ感染防止の為、樹木の葉っぱやパワーポイントの資料提供のみとなりました。



★その他の活動 ①7月10日(日)キノコ学習会(13名インストラクター2名参加) 有馬富士公園



★コロナ感染防止の為、例年通りには実施出来なかったイベント ①4月の春のありまふじフェスティバル ②春の山菜を食する会 ③4月の第25回定例総会は郵送で総会議題の審議・議決に変更 結果:承認

令和4年度下期の活動予定

- 10月以降 里山保全活動 :有馬富士森林公園及び周辺エリアでの森林整備等 毎週おもに水・土曜日に活動
- 10月15日・29日 北摂里山大学支援
- 11月~12月に3回 松が丘小学校里山体験学習支援
- 11月29日 弥生小学校自然学習支援「森と樹木のおはなし」
- 2月 椎茸菌打ち体験会